

コンピュータチェック事例コード

48SJ000301500

コンピュータチェック内容

癌胎児性抗原(CEA)の算定があり、家族性大腸腺腫症の患者以外で過去に悪性腫瘍特異物質治療管理料が算定された場合にチェックを実施。

コンピュータチェック根拠

悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原(CEA)を行った場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できるとされています。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

コンピュータチェックの対象となる診療行為(医薬品、特定器材)を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、当該コンピュータチェックの内容に該当したレセプト件数

2 折れ線グラフ(該当レセプトの査定・返戻割合)

コンピュータチェックの対象となった項目が
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】審査の結果

査定	返戻	: 設定根拠どおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

➤ 全国の査定・返戻割合 77.68%

➤ 検証対象都道府県 31

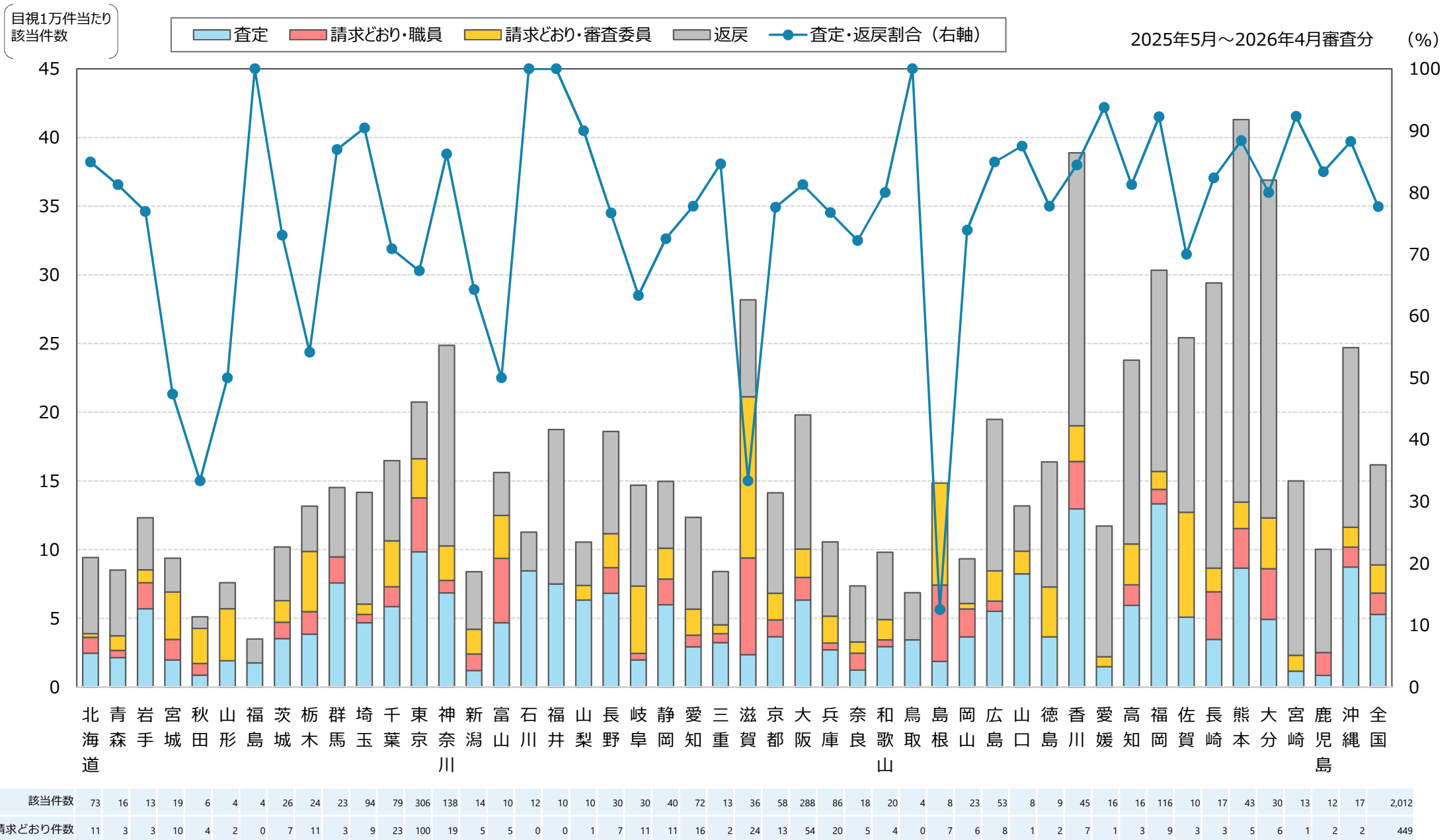
検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	島根、秋田、滋賀、宮城、富山、栃木、岐阜、新潟、東京、佐賀、千葉、奈良、静岡、茨城、岡山、長野	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	滋賀、島根、富山、東京、大分、長崎、香川、熊本、岡山、岩手、静岡、長野、大阪、栃木、高知、宮城	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	滋賀、佐賀、島根、岐阜、栃木、大分、徳島、宮城、千葉、富山、高知、東京、香川、秋田、長野、静岡	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数(全国)	当該コンピュータチェックの内容に該当	
設定根拠どおりの審査	査定・返戻の計	2,012件
検証を必要とする審査	請求どおり	1,563件
		449件

コンピュータチェック対象:癌胎児性抗原(CEA)

医科



【該当件数】 当該コンピュータチェックの内容に該当したレセプト件数